

国語：MAPの考え方を生かした話すこと・聞くことの活動

～ディベートを通して～

1 MAPを生かした指導の工夫

自分の意見をしっかりもち、自分のことばで聞き手に分かりやすく明確に述べることは、国語科における大切な目標の一つである。ディベートを行い、発言の機会を意図的に設定して、生徒の学びを促していきたい。また、MAPの考え方を取り入れ、生徒が安心して自分の考えを発言できる雰囲気づくりを大切にしていきたい。

2 単元名 分かりやすく話そう

3 指導対象学年 1学年

4 単元の目標

(1) 教科としての目標

伝えたいことを聞き手に分かりやすく話すことができる。

(2) MAP導入のねらい

一人一人が自分の思いや考えを安心して発言し、互いの感じ方や考え方を認め合えるような雰囲気をつくっていききたい。また、ディベートを一つの体験活動ととらえて、授業の流れの中に体験学習サイクルを位置付けていききたい。

5 指導に当たって

現代社会は国際化・情報化の社会と呼ばれるようになって久しいが、その社会を生き抜いていく生徒は「よい話し手・よい聞き手」でなければならないと考える。生徒が安心して自分の考えを話せるような雰囲気づくりを大切にしながら、話す力（適切な表現力）や聞く力（理解力）を培っていくことが「よい話し手・よい聞き手」を育てることにつながる。

本単元では、一人一人に発表の機会を何度も与え、音声表現の上達ぶりを共に認め合い、発表に対する自信と成就感をもたせたい。

6 指導計画（7時間扱い）

時数	学習内容
3	・分かりやすく話すための3つの方法を理解する。 ・「分かりやすく書こう」で学習した4つの説明の仕方を再確認する。
3	・CD、VTR等でディベートの方法を知る。 ・グループをつくり、ディベートの準備を行う。（個人・グループの目標設定等）
1（本時）	・ディベートを行う。

7 本時の指導

(1) 本時のねらい

一人一人が安心して自分の考えを発言できる雰囲気を大切にしながら、ディベートを通して、聞き手に分かりやすく話すことの大切さ、要点をとらえて聞くことの大切さを学ぶ。

(2) 指導に当たって

生徒の教え合い、学び合いを促進するような支援を大切にしたい。

(3) 授業の展開

段階	学 習 内 容	生 徒 の 活 動	形態																				
導入 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ 1 本時の授業についての説明 2 本時の目標確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よくあいさつをする。 ・ディベートを通して、分かりやすく話す、要点をとらえて聞くことの大切さを学ぶという授業内容について理解する。 ・事前に立てたディベートに取り組む際のグループの目標、個人の目標を確認する。 	<p>一斉</p> <p>個 班</p>																				
展開 (25)	<p>3 ディベートのテーマ、ルール、役割分担の確認</p> <p>4 ディベート テーマ 朝食は和食？それとも洋食？ ルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自派の長所を挙げて討論する。 ・1人最低1回は発言する。 (ディベーター) ・主張のよい点をとらえて判定する。 ・自分の支持する立場にとらわれた判定を行わない。(審判) <p>役割分担 司会進行2名、計時1名 ディベーター各6名 審判3人一組×5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ、ルール、役割分担を確認する。 <table border="0"> <tr> <td>和食派立論</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>洋食派立論</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>作戦タイム</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>質問 和食→洋食</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td>洋食→和食</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td>審判→和・洋</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td>作戦タイム</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>和食派最終弁論</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>洋食派最終弁論</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>判定</td> <td>2分</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・審判の生徒は3人一組のグループをつくり、協力して判定をする。 	和食派立論	2分	洋食派立論	2分	作戦タイム	2分	質問 和食→洋食	1分	洋食→和食	1分	審判→和・洋	1分	作戦タイム	2分	和食派最終弁論	2分	洋食派最終弁論	2分	判定	2分	<p>班</p> <p>一斉</p>
和食派立論	2分																						
洋食派立論	2分																						
作戦タイム	2分																						
質問 和食→洋食	1分																						
洋食→和食	1分																						
審判→和・洋	1分																						
作戦タイム	2分																						
和食派最終弁論	2分																						
洋食派最終弁論	2分																						
判定	2分																						
まとめ (15)	<p>5 振り返りと本時のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して気付いたこと、感じたことを互いに発表し合う。 <table border="0"> <tr> <td>司会進行、計時グループ</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>ディベーターグループ</td> <td>6人×2</td> </tr> <tr> <td>審判グループ</td> <td>3人×5</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">最後は学級全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの振り返りを全体の前で発表し、共有する。 ・自己評価カードに記入する。 ・本時の活動について、教師からの評価と次時の予告を聞く。 	司会進行、計時グループ	3人	ディベーターグループ	6人×2	審判グループ	3人×5	<p>班</p> <p>一斉</p> <p>個 一斉</p>														
司会進行、計時グループ	3人																						
ディベーターグループ	6人×2																						
審判グループ	3人×5																						

教師の働き掛け(MAPを導入したねらい)	MAPの考え方を生かした指導の留意点	
	体験学習サイクル	GRABBSSチェック
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前に書かせていた自分自身の目標、グループの目標を確認させ、共通理解を図り、活動への意欲付けとする。 ・ 個人やグループの目標は、勝つことに固執させず、ディベートへの取組について設定するよう助言する。 ・ 自分やグループの目標を達成するためにどのように取り組むのかをイメージさせる。 	↓ 目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディベートに意欲的に取り組もうとする姿勢はできているか。 ・ 活動に際しては、気持ちをグループに置くこと、一生懸命取り組むことを伝える。 ・ 目標は大まかなものではなく、具体的にかつ達成可能なものを設定しているか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ディベートのルールと個々の生徒の役割を確認する。 (ディベーター、審判、司会進行、計時) ・ ディベーターには、自派の長所を挙げて討論するように助言する。 ・ 審判の生徒には、両派の主張のよい点をとらえて、判定に反映させるよう助言する。 ・ グループの中での自分の立場や仲間とのかかわり方を意識して活動するよう話す。 ・ 作戦タイムの際に、リーダーを中心として話し合いが進んでいるか、意見が違った方向に進んでいないか確認し、助言する。 ・ 限られた時間の中で、分かりやすく話すこと、要点をとらえて聞くことを体験的に学ばせる。 	↓ 実体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人がそれぞれの役割を自覚し、意欲的に取り組もうとしているか。 ・ 勝つために相手の短所をつくような討論の進め方をしているか。 ・ 活動に集中していなかったり、個人攻撃を受けそうな生徒はいないか。 ・ グループ全員が活動にかかわっているか。 ・ 普段発言することに消極的な生徒も意見を述べているか。 ・ グループ内で発表の足りないところを補ったり、教え合ったりしているか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身、グループが立てた目標は達成できたか、自分のグループへのかかわり方はどうだったか、振り返らせる。 ・ 何を感じ、何を学んだのか、反省だけでなく、肯定的なことでの気づきに焦点を当て振り返るよう助言する。 ・ 分かりやすく話すこと、要点をとらえて聞くことの大切さを体験を通して感じ取らせたい。 ・ グループでの振り返りを全体の前で発表し共有させる。 ・ 本時の授業で学んだことを、学校生活のどのような場面で生かせるか考えさせ、今後の学習活動へつなげる。 	↓ 振り返り ↓ 一般化 ↓ 適用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人が安心して自分の意見を言える雰囲気ができているか。 ・ 振り返りの際は、ディベートの勝敗にこだわらないように注意する。 ・ 友だちのよかった点、自己の発見等にも目を向けていたか。 ・ 自分や友だちの取組を肯定的に受け入れているか。 ・ 本時の目標を達成できたか。 ・ 成成感はあるか。

(4) 評価

- ・ディベートの中で話す速さ、声の大きさ、言葉遣い等に注意しながら発表することができたか。
- ・発表の要点をとらえながら聞くことができたか。
- ・テーマに対する自分の考えをしっかりとってディベートに参加しようとしたか。
- ・自分自身、グループが立てた目標を達成できたか。
- ・グループの中で意欲的に自分の意見を発表することができたか。

8 MAPを生かした効果、まとめ、考察

ディベートの授業自体をアクティビティととらえ、実践を行った。ディベートというどうしても勝敗に重きを置いてしまいがちになり、勝つために相手の論の不備を突くような進め方になってしまいがちであった。そこで、本事例では、ディベートのテーマと進め方を工夫し、長所を挙げて論を進めるような方法を試みた。両派とも自派の長所を上手に挙げながら論を展開していた。さらに、個人やグループの目標設定も抽象的なものでなく、達成可能な具体的なものにするよう働き掛けた。このように、MAPの手法や考え方を授業の中に取り入れ、一人一人の授業へのかかわり方や、グループへのかかわり方を大切にすることで、生徒はディベートの中で、自分の意見を堂々と発表することができた。審判の生徒もグループの中で決めた役割をきちんと果たし、メモをとりながら真剣に聞く姿が見られた。振り返りは、初めは少人数のグループ単位、そこから学級全体と広げていった。生徒はあまり抵抗を感じることなく、自分の考えや感想を話していた。

本事例では、グループ分けや目標設定の時間にも、MAPの手法や考え方を生かせる場面が数多くあると思われる。今後もさらに実践を積み重ねていきたい。

本単元の学習を通して、生徒は、話す・聞く力、自分の意見を組み立てる力、情報を収集する力など、総合的な国語の力が、身に付いたと評価できる。特に、「話す・聞く」力は、人間が生活をしていく上で基本的に身に付けておかなければならないものの一つである。今回、学習したものを普段の学校生活の中で生かせるように他教科の先生方とも連携して取り組んでいきたい。